

〈協議会のテーマ〉 「iism.」のまちづくり

～地域のみんなで心を通わせ、子どもを見守り育てる石山に！～

## 第2回学校運営協議会(石山幼稚園)開催

昨年、11月29日(月)に第2回学校運営委員会を石山幼稚園で行いました。

今回は、ゲストとして、保育の家しょうなんの塚本園長、石山寺こども園から堀井園長、大津市教育委員会から澤田氏、平出氏にも参加していただきました。

保育参観の時間には、園庭で元気に走り回っていたかと思うと駆け寄ってくる子どもたち、自分たちが工作した作品を使ったごっこ遊びに招いてくれる人なつっこい子どもたちとしばしふれあい、心が和みました。また、ちょ



うどこの期間に開催されていた作品展では、子どもたちの迫力ある鮮やかな絵、集中力の凄さを感じられる作品の数々を拝見しました。5歳児たちが案内をしてくれて、自分

たちの作品について説明してくれました。3歳児には出来なかったことが5歳児になると立派に出来ることにも感激しました。



### 【各校園からの報告】

コロナ禍ではありましたが、実施できた取組などを各校園から報告してもらいました。

石山幼稚園では、学年ごとの運動会、滋賀大でのドングリ拾い、作品展のことなどを話していただきました。5歳児が琵琶湖博物館に行けたことは、子どもたちの作品作りに活かされていたと思います。

石山小学校からは、5年生と幼稚園の5歳児の交流である「5・5交流」のこと、6年生が奈良方面に修学旅行に行けたことなどの報告がありました。修学旅行では、現地の方への挨拶やお礼がしっかりとでき、班活動では友だちをいたわる姿が見られて、6年間の成長が感じられたようです。

石山中学校では、「石山フェスタ」、「GO!5!ワーク石山」が中止となりましたが、巨大壁画づくりは少し形を変えて行われることになりました。また、タイミングにも恵まれて大津市内では唯一、宿泊を伴う修学旅行が実施されました。思い出深い良い経験になったことと思います。

ゲストで参加していただいた保育の家「しょうなん」の塚本園長先生からは、未来の保育の方向性として浮上してきた「幼保小の架け橋プログラム」

(いわゆる「小1の壁」といわれる事象に関して保育者や教育に携わる者、そして地域関係者が情報を共有することで解決できることがある)というお話を伺うことが出来ました。また、今の0歳児、1歳児はマスク姿の大人の顔し



か知らず、ふとマスクを外した保育士の顔にびっくりした表情をするそうです。この状況に不安を感じると話され、我々の心に深く残りました。他の先生からも、マスク生活が続き、子どもの表情が読みづらいことを問題視する声が上がっていました。(裏面に続く)



大津市教育委員会の澤田氏からは、これらの報告や宿泊体験が行えない現状を受け、子どもたちの体験学習の減少を危惧する声があがりました。「触れ合う・一緒に食べる・共に寝るなどの今までは当たり前に行っていたことが出来なくなり、子どもたちの発達・発育にとって好ましくないこの状況がいつまで続くのか。」と。そして、参加者の皆さんからも、コロナ禍であっても、どうにかして子どもたちが人と深く触れ合って成長できるような取組を作り出す必要があるという意見が聞かれました。

## 四つのグループに分かれて「熟議」を行いました！

### 【テーマ】～ 子どもたちの見守りの中で ～ 「気になること、感じていること」

日頃、地域の子どもの様子を見て、気になることや感じていることを話し合ってもらいました。そして、どんな意見が出て、どんな話し合いになったかをグループごとに発表してもらいました。

《 こんな意見が出ていました 》 ※意見は一部です。

- ・学区の子どもたちはのびのびと元気で人なつこい。
- ・交通ルールを守れていない子がいる。家庭でしっかり教えているのか？
- ・大人の車のマナーも悪い。
- ・大勢の子どもたちが集団で遊んでいる光景を見ない。
- ・あまり外で子どもの姿を見ない。家でゲームでもしているのか。
- ・あいさつはしっかり出来ているのではないか。
- ・子供会がなくなり、行事への参加が減ってしまった。
- ・低年齢の子が上の年齢の子の姿を見て成長することが難しくなった。
- ・大人同士のつながりが薄くなった。
- ・地域の役員の高齢化がある。また、役員の方以外との交流がない。
- ・地域での情報共有が必要。



→ → → 子どもの話題から大人たちの現状に話題が移っていました。

### ◇ グループ協議で出てきた意見から見えるもの、感じる事

人と人とのつながりが薄くなり、みんなで体験する、経験することが減ってしまいました。集まることや共に食することも難しい状況となっておりますが、もう一度繋がろうとする意識が必要ではないでしょうか。11月に学区民会議の主催で小学校のグラウンドを会場に焼き芋大会が行われました。例年は、その場で焼けたお芋を、たき火を囲みながらみんなで食べる事が出来ましたが、今回はそれぞれのお家に持って帰って食べてもらったそうです。いっしょには食べられなくても、親子で、または友だちといっしょにお芋をもらっている笑顔が印象に残ります。感染症対策を重視しながら行事を行うことは、こういった新しいスタイルでやっていくことになるのかも知れません。いろいろな方法を工夫しながら、考えながら行事やイベントを続けていくことが孤独や孤立、つながりの希薄さを生み出さないことになっていくのだと思いました。ウイルスも変化しながら我々の前に現れています。私達も上手く変化に対応しながら毎日を過ごすことが大切なのではないかと思えます。

### 〈 石山学区の皆様へ 〉

年は改まりましたが、世の中の状況は改まることなく、今年もコロナ禍を粛々と過ごす日々になるかも知れません。それでも私たちは、石山学区の子どもたちのようすをお伝えしていきながら、地域の大人がつながり、子どもたちを大切に育てる思いを共有することを目的に活動したいと思えます。今後も本協議会の活動にご理解とご協力をお願い致します。何かご意見ご質問がございましたら、今年度の事務局石山中学校にご連絡ください。(電話 077-537-0070)